



都市における空き家・空き地の現状とその社会的活用の可能性

都市経営学部都市経営学科 講師 大谷 悠

キーワード 空き家, 空き地, まちづくり, ドイツ

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

計画や不動産市場から「見放された空間」としての空き家・空き地が、地域住民の居場所、移民・難民の社会的統合、新たな文化・芸術・食の発信拠点、子どもの遊び場など、多様な人々を包摂する社会的な役割をもつ空間へと発展する可能性について、研究と実践の両面から探っている。具体的なフィールドはライブツィヒ(ドイツ)、尾道(日本)、トビリシ(ジョージア)などであり、都市計画、建築、都市社会学、地理学、哲学、ネットワーク理論、民俗学など、まちづくりに関連する幅広い分野を横断しながら、学際的な視点をもって研究を行っている。



2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

これまでの連携実績

- ・日本市町村国際文化研修所における行政職員向けレクチャー(2019年より毎年秋)
- ・協働ステーション中央(東京都中央区)においてNPO関係者や市民に対するレクチャー
- ・ライブツィヒ大学、東京大学、千葉大学、東京理科大学、桃山学院大学、信州大学など多数の大学における講演活動